

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年12月9日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300526
法人名	有限会社 鹿屋介護サービスセンター
事業所名	グループホーム 田園
所在地	鹿児島県鹿屋市祓川町5369番地1 (電話) 0994-40-3151
自己評価作成日	平28年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の環境はお互いのプライバシーを確保できるように、ホールが50畳の広さを確保して、ストレスを少なくのんびりと老後を暮らせるように工夫している。玄関からホール、トイレ、浴室とバリアフリーとなっていて、車椅子でも障害なく安心して過ごせる。周りの環境も静かで、車の騒音もほとんどない。施設内の防火設備もスプリンクラーが設置され、停電時も30分間は非常灯が点灯する。また、町内会に入っており、運営推進会議には町内会長や民生委員、地元消防団員も参加されて、地域行事も把握できており、鹿屋市の無形文化財の棒踊りや、八月踊りへの招待や地元小学校の運動会の見学などに参加させていただき地域との交流も図っている。施設の畑では四季折々の野菜や果実などを栽培して、収穫などで直接自分で畠作業が出来ない人でもまじかに見ること季節感を味わえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は田園地帯に建てられたグループホームで広い敷地内には菜園や花壇があり散歩や地域の方々との触れ合いの場となっている。
- ・町内会に加入し役員も引き受け、施設で班会も開催している。地域行事へ参加したり、事業所行事への地域住民の参加がある。小中学生との交流やボランティアの受け入れ、野菜や果物の差し入れなどがあり、地域との交流も盛んである。
- ・災害対策として定期的に避難訓練を実施し、地元消防団や地域住民との協力体制も築かれている。緊急時の救急救命法を職員全員受講している。
- ・利用者がその人らしく、のんびりと暮らせるように、多目的ホールは広くゆったりとして、好きな場所で過ごせる配慮がされている。重度化を見据え浴槽を浴室中央に設置するなどの工夫が見られる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員総意で作った理念は地域との交流を意識したものであり、玄関及び事務所に掲示して朝申し送りの時にみんなで一緒に唱和して共有し実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念で、玄関や事務所・ホールに掲げ、朝の申し送り時に唱和し、職員会議等で振り返り、理念に沿ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設は町内会に入り、町内の班会にも参加して、施設で班会を開いたり、町内会の棒踊りも毎年施設に来て踊ってくださりまた、八月踊りに招かれたり、隣の方が畑で採れたものをくださったり交流が多い。	町内会に加入、回覧板で情報の共有や班会を事業所で開催するなど連携が図られている。法人行事への地域住民参加や町内会棒踊り・八月踊りでの交流、野菜やコメ等の差し入れなど、日常的に交流を行っている。今年から高齢者や認知症の相談窓口を開設している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の高齢者や認知症の方々の相談窓口として“オレンジのまど”を設置して地域の方々の相談に気軽に応じるようにしている。また近所の方も入所されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族代表や町内会長、民生委員、消防団員や市の高齢福祉課職員、他のグループホーム職員など参加して事業活動報告、意見交換、外部評価の報告などを通して、サービス向上に活かしている。</p>	<p>会議は定期的開催している。他のグループホームの職員も参加している。事業所の状況や活動報告の他、外部評価の報告などがなされ、参加者から多くの助言や提案が出て、そこでの助言で梅雨や大雨で崩れやすい危険場所を確認するなど、安全な環境のサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>市の高齢福祉課とは運営推進会議や認定申請などや相談助言をいただき、福祉政策課職員なども訪問助言や報告相談など協力関係を築いている。</p>	<p>市担当者には、電話や窓口に向き事業所の実情や取り組みを伝え助言を貰っている。ホーム便りも届けている。市主催の研修会にも積極的に参加している。生活保護の担当者とも密に連絡し話し合っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>春秋の施設内や外部での研修に参加した職員は全員が管理者に報告をして職員会議で説明学んでもらい、絶えず意識を持ってもらいながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「虐待の芽チェックリスト」やマニュアルに沿って定期的に勉強会を実施し、外部研修にも積極的に参加している。事例検討などで職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束についても日々確認している。昼間は玄関の施錠はせずに、職員間の連携で安全な生活を支援している。町内無線放送や地域住民の協力を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてどういうことが虐待になるのか施設内や外部での研修をして勉強会で職員全員学ばせて、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎年権利擁護についての研修会に管理者や職員の代表が出席して学ばせていただき活用できるようにしているが、今のところ成年後見人を必要している方はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は必ず本人や家族の前で契約書や重要事項説明書を読み上げて、説明を行ない、本人同意を得ている。改定事項は必ず事前に説明同意を得てから変更をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	近況報告書を毎月家族へ渡したり家族の来所時に意見要望を聞いたり、利用者様の現在の状況を報告をしている。また家族会を年2回開き家族の意見などアンケート用紙で聞いたり、家族同士で話し合いをしてもらいその意見を運営に反映させている。	利用者からは日常会話や表情・しぐさから思いを汲み取るよう心がけている。家族からは毎月の状況報告や面会時・家族会・アンケートも含め意見や要望を聞く機会を作っている。出された意見や要望は話し合い、運営に反映させている。医療面で訪問診療導入につながった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎朝夕の申し送りや、毎月の職員会議などで意見要望を聞き個別の相談にも応じている。また、勤務表は個別の休み希望を確認してから作成している。</p>	<p>朝夕の申し送り時や職員会議で意見や提案等聞く機会を設けている。出された意見や提案は話し合いを持ちケアに反映させている。管理者は職員との会話を大切に、働きやすい環境づくりを心がけている。職員からの要望で入浴介助を男性と女性ペアで行うようになった事例がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>資格取得に必要な研修には参加できるように配慮した勤務を組むようにしている。資格取得時は対応した給与にして勉強意欲を持てるようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修のお知らせや施設内研修の機会を設けて、働きながら学べるようにしている。希望がなくても必要な研修は参加するように促している。また勤務は研修優先になる様に配慮している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営推進会議は他施設と相互訪問して情報共有をさせて頂いている。また同業者の懇親会などに積極的に参加してたし瀬戸の交流を図りサービス向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の前に家族や本人のアセスメント情報や生活歴を調べて、また家族の要望や希望、出来ること出来ないことなどを尋ねて、施設での生活が本人にとって安心の場になる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に本人の生活歴や価値観、不安なことなど話し合い、本人の要望に沿った生活が出来るように信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始の段階で利用者様のQOLの確認、まず最初に必要なことを話し合い安心安全な生活が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来ること出来ないことを見極めて、どういったお手伝いや役割分担をしてもらえるか本人様の希望に添った暮らしを出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月近況報告をして、今必要な家族の支援をいただきながら共に本人を支えて頂いている。また、遠方の方にも状況報告をして必要なら面会に帰ってきていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活歴情報で、本人の要望や必要としていること友人や知人との交流や必要な外出の支援など馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	本人がこれまで大切にして来た馴染みの人や場所を把握し、親戚や友人・知人の訪問の際には、状況に応じてお茶を出している。馴染みの店での買い物や墓参など継続的關係が途切れないよう働きかけている。電話の取次ぎなども行っている。家族の協力で外食や墓参り等の外出支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全ての人が相性が良いとはかぎらないから、相性の良し悪しで仲の良い人を隣同士にして相性の悪い人は適当な距離を保てるようなテーブル席にして、気持ち良く過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても相談に応じて必要なら再入所も優先して出来るように配慮している。その他の相談にも出来るだけの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いをうまく伝えられない方も、アセスメント情報や日頃の生活状況や家族や友人の情報提供などを通して、本人本位の生活が出来るように、申し送りノートで情報共有を図っている	入居時アセスメント情報、家族や知人等からの情報の把握、日常会話や表情・しぐさからくみ取るよう心がけ、申し送りノートで情報を共有し、本人本位の観点から個別的な対応を行っている。刺身を食いたいという思いを検討し反映させた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の時に本人の生活歴や習慣、生活環境などを本人や家族からお聞きして出来るだけ馴染みの生活が出来るように支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望やまた出来ること出来ないことなどや毎日の生活の中で体調など注意しながら、生活力に沿って支援が出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングの実施と毎日の介護実施状況の確認で変化を見落とさずに職員間で話し合い介護計画を立てている。また家族や本人の意向も計画に取り込み、受診や往診での医師からの意見など関係者全員の意見が反映された介護計画を作成している。	本人や家族の意向を確認し、受診や往診での医師の意見を取り入れ、職員間で話し合い個々に応じた介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の経過記録や介護日誌などを朝に申し送りして、本人の変化があればそれに対応して介護の実践を行うように介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の希望などまた家族の出来ること出来ないことの把握をして職員同行の買い物や外食外出など柔軟なサービスが出来るように心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の催物や行事への参加や地域の方やボランティアの訪問など地域に溶け込んだ暮らしを楽しめるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人の希望に添ったかかりつけ医受診が出来るように対応している。また、本人の負担が少ない訪問医療を希望する家族も増えており、紹介して対応している。受診記録簿を記入して、職員間で情報共有している。</p>	<p>かかりつけ医は本人や家族の希望を大切にしている。訪問医療を受ける利用者も増えており、対応している。受診の内容を記録して、家族や職員間で情報を共有している。緊急時の対応など連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常、介護職員は看護師や訪問看護師などに介護の時の気付きや変化を伝えて、お互いの情報共有して適切な医療看護が受けられるように日々支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の入院時は情報提供書を提供して、適切な治療が出来るように支援している。また病院とは協力病院の協定書を交わして病院関係者との関係づくりをしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に「重度化した場合における指針」で施設では十分な終末期の対応が今のところはないが、訪問看護や訪問医療との連携で家族の理解のもと、出来るだけの対応をして支援していくことを説明している。また看取りの研修会参加や施設内研修で勉強会をして職員が対応できるようにしていく。</p>	<p>指針・マニュアルがある。入居時文書で説明し同意書をもっている。状況変化に伴い随時話し合い、訪問看護や訪問医療との連携で家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。職員全員が方針を認識し、関連の勉強会や研修会に参加している。看取りの事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の救急救命法を職員全員入職時に消防署で受講している。また、救急車の呼び方や情報提供書の準備をして、対応している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防団との災害避難訓練を実施している。地域住民や近くの消防団員も災害時の情報をいち早く携帯電話でキャッチできるようにしている。食料や水なども3日分を確保している。</p>	<p>年2回消防署立会いのもと昼夜想定避難訓練を実施している。避難場所は広い敷地内の庭である。スプリンクラーや緊急通報装置も設置され、地域住民や近くの消防団員も災害時には情報を携帯電話で確認できるように協力体制ができている。緊急時の救急救命法を職員全員受講している。災害時の水や米・缶詰などの備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導など他者に聞こえないように声掛けしてプライドを傷つけないように配慮している。各人のプライバシー保護にも注意している。	マニュアルに沿って外部研修や内部研修を利用して意識の統一を図っている。利用者の人格を尊重する言葉かけや対応に留意し、名前の呼び方や写真撮影について確認をしている。排泄や入浴などでは羞恥心に対する配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決定出来ることは優先して希望に添える支援をしている。職員は本人らしい生活が出来るように思いや希望を日常生活の中で気づくように努めて支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて食事時間や入浴などしたいことしたくないことなどを尊重して、気楽に生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	服やお化粧品の購入や身だしなみのお手伝いなど一緒に買い物に付き添ったり、その人らしい生活が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは希望の献立を聞いて用意したり、食欲がない時は好きなものを用意したり、食事が楽しくなるように支援している。	菜園の野菜や旬の食材で嗜好に配慮し、希望に沿った献立を作成している。個々に応じた食事形態や代替え食などの工夫、弁当・外食など、誕生日にはケーキを準備したり季節の行事食など食事が楽しみなものになるよう工夫している。準備や片づけを職員と一緒にやっている。梅干しなどの保存食作りも利用者と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事ごとに食事量や水分量の記録をしている。また水分量を確保するために好きな飲み物、ヤクルト、コーヒー、ジュース、栄養補助食品などを活用し、個人に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事ごとに口腔ケアをしてもらい、自立度に合わせて介護や支援をしている。入れ歯は洗浄剤につけて消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	バイタルチェック表に一人一人の排泄や食事量、水分量を記録して、排泄のパターンを把握して、昼間は基本的にトイレでの排泄を促している。昼間だけがリハビリパンツから布パンツに改善した方もいる。	排泄チェックシートを活用し排泄パターンの把握を行い、声かけ誘導で日中は基本的にトイレでの排泄を支援している。パットの種類の検討、夜間のみポータブルトイレ使用など自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツ使用から布パンツに改善された事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	車いす生活の方はどうしても運動不足になるが、体操や食事の繊維質の野菜摂取など工夫している。医師の指示のもと便秘への対応は緩下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴日以外も希望で入浴できる。また排泄後の汚染時何時でも入浴できる。入浴剤も必ず入れて温泉の気分に入れるようにしている。入浴拒否は順番や時間など工夫して入浴するように配慮している。	入浴は基本的に週3回になっているが、排泄後の清潔保持など体調や希望に合わせて柔軟に対応している。2人介助で安全に入浴を楽しめるように支援している。入浴剤を使用し温泉気分を味わっている。入浴を拒む利用者には声かけや時間調整など職員間で連携して、状況改善に努めている。清拭や足浴なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転もあるが、外での日光浴など工夫している。休みたいときに本人のペースで休息して、朝起きなども声掛けはするが、本人の自主性を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や用法、副作用など把握して、服薬管理は職員がすべて行い、飲み忘れや誤薬、服薬後の体調変化などの異常があれば医師に報告して指示を仰ぐ体制でいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個人の趣味や嗜好に合った生活を出来るように、野菜や花栽培買い物、外出、コーヒーやビール、レクリエーションのカラオケ、塗り絵、パズルなど楽しめるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>一人一人の体調に注意して、希望に添うように買い物や花見など支援している。重度化して一緒に出掛けられない方がいるが看護師が付き添い外の空気を味わうなど支援している。</p>	<p>日常的には天気の良い日は周辺を散歩し、畑や花壇を観に行ったりして楽しんでいる。計画を立てて花見や個々人の希望で買い物・墓参などに職員と一緒に出かけるなど支援している。家族の協力で外出や外食などにも支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で財布を持ちたい方には、お金を持ってもらい、買い物の時に使ったり、職員に買い物を頼まれたりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自分で手紙の書けない人は手紙の代筆や電話をしたい方は番号を押してあげたり、他の人に連絡を取れるように支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は玄関からホール浴室トイレ等バリアフリーになっていて車いす操作も安心できる。ホールもゆったり広く、プライバシーを保てる空間になっている。季節ごとの飾り付けをして壁に職員の描いた絵を貼り季節感を出している。	多目的ホールは広く、テーブルスペースとソファースペースに分かれている。採光や室温・湿度・換気に十分配慮されている。季節ごとの飾り付けや手芸品・写真などが飾られ、季節感のある落ち着いた雰囲気となっており、居心地が良い。リビングから直接外へ出られるようになっており、開放感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い共用空間があるので、気の合う人同士が隣同士になるようにテーブル席を配置して、気の合わない人がお互いに距離を置けるようにテーブル席を配置して思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はエアコンや洗面所、ベッド、クローゼットを設置している。また、自分の馴れ久しんだ家具類も出来るだけ持参してもらい、居心地良く過ごせるようにしている。	居室は窓が大きく掃き出し窓の部屋もある。エアコンや洗面台・ベッド・クローゼットが備え付けである。寝具やテレビ・位牌・写真など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮し、居心地良く過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からホール、トイレ、浴室など全てバリアフリーでまた、危険のないように職員が見渡せるような家具の配置と配慮がされ出来るだけ自立した生活が安全に出来るように支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない